

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 4年 1月 12日

協議会名: 長野市公共交通活性化・再生協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
長野市	中条線 中条支所～中条地区～中条支所	地区人口の減少に加え新型コロナウイルス感染症の影響によりさらに利用者は減少している状況を共有し、案内チラシの配布など地域への利用促進の依頼をした。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C 令和5年度まで2,200人以上確保する目標に対し、令和3年度実績は1,617人であった。	地区人口の減少等により、利用者の減少に歯止めがかからなくなってきていることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響によりさらに利用者が減少している。地域のニーズ調査を行い、運行内容の見直し及び利用促進策を検討する。
アルピコタクシー株式会社	篠ノ井共和線 川中島駅～Aコープ・篠ノ井店～篠ノ井病院前	支所、地区役員等に利用状況等を説明するとともに、案内チラシの配布などの利用促進を依頼した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C 令和5年度まで1,900人以上確保する目標に対し、令和3年度実績は1,598人であった。	地域のニーズを反映した運行内容とするため、支所や地区役員等と連携しながらルートの見直しを検討する。
アルピコタクシー株式会社	安茂里線 安茂里駅～安茂里支所～長野ターミナル	支所、地区役員等に利用状況等を説明するとともに、案内チラシの配布などの利用促進を依頼した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C 令和5年度まで3,700人以上確保する目標に対し、令和3年度実績は3,460人であった。	利用者を増加させ目標値を達成できるように、地区役員等と連携しながら利用促進を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 4年 1月 12日

協議会名:	長野市公共交通活性化・再生協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	長野市は本州の中央部長野県の北部に位置し、北アルプスに源を発する犀川の扇状地と千曲川の沖積地によって形成された肥沃な長野盆地に位置し、平安の昔から「三国一の霊場」善光寺の門前町として日本全国に親しまれてきた。面積は834.81平方キロメートル、人口は372,080人(令和3年4月1日時点)。近年のモータリゼーションの進展や少子高齢化、人口減少、さらには運転免許証の保有率の増加等により、公共交通利用者数は20年前と比較すると半数以下にまで減少し、その減少に歯止めがかからず、不採算路線の見直しなど、公共交通を取り巻く環境は大変厳しい状況にある。この事業により、高齢者等の日常生活の維持や小中学生の通学に必要な移動手段を確保できる。また、交通空白地域や交通不便地域を解消できるだけでなく、支線と幹線を適切な結節点でつなぐことで公共交通ネットワークが形成され、長野市が掲げるコンパクト＋ネットワーク型のまちづくりに貢献できる。